**中学校**

1 単元名　総合 「森林の素材を利用したものづくり」　　2時間

2 対象　　第1学年　8名

3 単元のねらい

○　身近にある森林に目を向け、森林の果たす役割や様子、環境についての関心を深め、課題を探る力を高める

○　体験的な活動を通して、課題を追求し、よりよく解決する力を身につけ、生き抜く力を養う。

4 指導過程

T1　T2は外部講師に依頼した。

| 活動内容 | 時間 | 担当 | 教師の支援 |
|---|---|---|---|
| 1 作業場所までの森林散策を行い、森林の特性について知る。 | 10 | 学年教師 | ・森林には複数種の樹木がある事に気付かせる。 |
| 2 木工素材の特性の説明を受ける。 | 10 | T1　T2 | ・形や色に注目できるよう声をかける。 |
| 3 ペン型キーホルダーの作成を行い、工具の使い方を身につける。 | 20 | T1　T2 | ・工具での怪我がないよう観察する。<br>・破損等がないよう注意喚起を行う。 |
| 4 木工クラフトを作成する。<br><br>(1)デザインを考える<br><br>(2)様々な素材を選び、加工する。<br><br>(3)ホットボンドなどを使って部品を接合し、作品を作成する。 | 50 | T1　T2<br><br>学年教師 | ・生徒のアイデアを実現できるよう助言する。<br>・工具での怪我がないよう観察する。<br>・ホットボンドでのやけどに留意する。 |
| 5 素材のどんな点を生かしたか互いに確かめ合う。 | 10 | 学年教師 | ・互いの良さを認められるよう促す。<br>・持ち運びに注意するよう伝える。 |

5 事後指導

・帰校後、活動を振り返り作文にまとめる。

・作品は教室内に展示し、互いに鑑賞できるようにする。

平成２８年度　森林環境学習　　廃材を利用した木製宝箱の製作（1年総合学習）

1　活動のねらい

○自分たちを取り巻く環境に関心を持ち、森林の果たす役割を理解する。

○間伐材を用いた製作活動を通して、身近な地域の森林やその利用に対する関心を高める。

2　主な活動

田村森林組合の方を講師として招き、森林に関する講話を聞くとともに講師の方の指導を受けながら間伐材を使用した作品を製作する。

○森林環境学習の方法

・総合的な学習の時間を利用して実施する。

・田村森林組合から４名の職員の方を講師としてお招きする。
森林の働きについて講話を聞く。
間伐材を用いた作品製作を行う。

・補足資料となる文章を読み、森林の重要性についての理解を補う。

○　活動内容

・森林環境学習のねらいと方法について
話題に上る環境問題と森や木の働きについて
間伐材を活かした作品づくりの事前準備について

・講話と製作活動
学年生徒全員で講話を聞き、森林の働きや間伐の必要性について学ぶ。
間伐材を用いた製作キットを組み立て、一人ずつ宝箱を作る。

・森林についての理解を深める
講話の内容を受け、補足となる資料を読み、森林および環境保全の重要性についての理解を深める。

3　活動の成果

○　田村森林組合の方々を講師として学ぶことにより、森林の果たす役割の重要性や森林を維持する上での課題について理解を深めるとともに、身近な問題としてとらえることができた。

○　講師の方々の丁寧な指導を受けながら製作活動に取り組むことで、木を材料としたもの作りの喜びを味わうことができた。また、間伐材を有効活用することの意義とその方法を学び、森林の利用に対する関心を高めることができた。

完成した木製宝箱

# 森林環境学習実施計画

中学校第１学年

１　ねらい

・森林組合の方を講師に招き、森林の果たす役割、森林を守る取り組みなどについての講話や間伐材を使った製作を通し、森林環境についての理解を深める。

２　実施日時　　平成２８年１１月３０日（水）
　　１３時３０分～１５時２０分（総合的な学習の学習）

３　場所　　３階視聴覚教室

４　講師　　ふくしま中央森林組合小野事業所業務課
　　様

５　内容

進行：（　　）

（１）　はじめの言葉　　（　　）
（２）　校長先生のお話及び講師紹介
（３）　講話及び間伐材を使った製作
（４）　お礼の言葉　　・・・　　１組学級委員（　　）
（５）　終わりの言葉　　（　　）

６　準備など

（１）　服装は運動着
　　講話は、体育座りで聞く。
　　作業は２人１組で、床の上で作業をする。
（２）　必要なもの：①　ハンマーを準備する。２３本以上。（技術室より）
　　②　雑巾２人で１枚　　（生徒が準備）
　　③　作業時に床に敷く新聞紙（学校で準備）
　　④　絵を描く場合に必要なマジック　８セット程度(学校のもの)
　　⑤　木工用ボンド　　（学校で準備）

７　会場図及び並び方　（学年集会の隊形）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 演　台 | | □ |
| ２組女 | ２組男 | １組女 | １組男 | □ |
| ○○ | △△ | ○○ | △△ | □ |
| ○○ | △△ | ○○ | △△ | □ |
| ○○ | △△ | ○○ | △△ | |
| ○○ | △△ | ○○ | △△ | |
| ○○ | △△ | ○○ | △△ | |
| ○○ | △ | ○ | △ | □ は講師・先生席 |

# 平成２９年度　第１学年　森林環境学習実施計画

１　目　　的　　間伐材を利用した木工クラフト製作や講師の先生による講話、学校周辺の森林観察をとおして、森林の役割や、会津を中心とした森林環境に関する特徴、現状、諸問題等についての理解を深め、森林環境を大切にしようとする意識を高める。

２　期　　日　　平成２９年９月５日（火）１校時～４校時

３　活動場所　　一箕中学校体育館・校舎周辺・教室

４　日　　程

８：３０　～　８：５０　　体育館入場、事前指導、準備　※６班編制
８：５０　～　９：００　　開会式（講師紹介）

**森林環境学習　１**
**【木工クラフト：森林の間伐材を利用した木工作品製作に取り組む。】**

９：００　～１０：１０　　クラフトに関する全体説明・準備・移動・製作
１０：１０　～１０：３０　　後片付け、掃除、班ごとの写真撮影
１０：３０　～１０：４０　　休　憩

**森林環境学習　２　　※小雨の場合は実施予定**
**【講話・観察会：校舎周辺の森林環境・樹木に関する理解を深める。】**

１０：４０　～１０：５５　　会津の自然や森林環境等に関する講話・観察会に関する全体説明
１０：５５　～１１：０５　　移　動
１１：０５　～１１：３５　　校舎周辺の森林観察会（講師の先生の説明を受けながら観察する。）
１１：４０　～１１：５０　　閉会式　※校庭で実施
１１：５０　～１２：２５　　学習のまとめ（教室に移動し、森林環境学習のまとめを行う。）

**※雨天時（体育館）**

１０：４０　～１１：１０　　会津の自然や森林環境、校舎周辺の森林等に関する講話
１１：１０　～１１：２０　　閉会式
１１：３５　～１２：２５　　学習のまとめ（教室に移動し、森林環境学習活動のまとめを行う。）
※後半の時間は、学年として「総合的な学習の時間」の学習を実施。

５　講　　師　　ＮＰＯ法人　福島県もりの案内人の会・会津支部（６名依頼）

６　経　　費　　〇収入　80,000 円　市補助金　　〇支出　38,400 円　材料費
36,000 円　講師謝礼
5,600 円　まとめ用紙代等

７　役割分担

| | | |
|---|---|---|
| 〇全体計画・渉外 | 渡部 | ：計画・報告作成、講師対応、資料作成 |
| 〇学習指導 | 吉 田、遠 藤 | ：班編制、まとめ用紙準備 |
| 〇生徒指導 | 二 瓶、齋 藤 | ：整列指導、心構え等指導 |
| 〇プログラム委員指導 | 佐藤 | ：開会式、閉会式進行指導 |
| 〇会場準備 | 青 木、遠 藤 | ：マイク、ブルーシート準備 |
| 〇写真撮影 | 磯 部、渡部 | |

８　そ の 他　　〇服装はジャージとする。観察会は長袖・長ズボン、帽子着用。（小雨の時のために、各自雨ガッパを準備）
〇木工クラフトについては、学校でブルーシートを準備する。（６班分）

# １年森林環境学習実施計画(案)
## ～総合的な学習の時間～

中学校

１　ねらい

（１）森林のもつ国土保全や地球温暖化防止などの多面的機能を理解し，森林資源を適切に整備しながら循環的に利用していくことの大切さを学ぶ。

（２）地域の自然や歴史，環境について体験学習を通して理解を深め，自然愛護，環境保全の心を育てる。

（３）北塩原村の自然景観を代表する銅沼・五色沼周辺の自然を観察し，郷土の自然と歴史に誇りを持つ。

**２　実施学年**　　１学年（１６名）

３　実施日　　平成２９年９月２０日(水)【小雨実施】　予備日：９月２２日(金)
※なお，大雨・荒天時には，６時に緊急連絡網で順延の連絡をする。
また，学校配信メールでも通知する。

４　引率者

５　講　師　　裏磐梯エコツーリズム協会　　様　　様
磐梯山噴火記念館　　様

６　学年テーマ　　『磐梯山の噴火と自然環境の変化を知る』
**（単元名）**

７　活動場所　　北塩原村裏磐梯地区（磐梯山登山道【銅沼】　五色沼自然探勝路）

８　移動方法　　村バス

９　日　　程

学校発 8:30 ―バス→ 裏磐梯スキー場 9:10 ―徒歩→ 銅沼 10:00 ―徒歩→ 裏磐梯スキー場 11:00 ―バス→ 道の駅（トイレ）

（トイレ）
磐梯山噴火記念館 11:15 ～ 12:15 ―バス→ 磐梯高原駅（昼食） 12:20～13:00 ―徒歩→ 五色沼入り口(西側) 13:10 ―徒歩→

（トイレ）　（トイレ）　（トイレ）

―徒歩→ 五色沼東側(ビジターセンター口) 14:50 ―バス→ 学校着 15:40

（※　　方面途中下車）

10　持参物　　【個人】筆記用具，リュックサック，タオル，弁当，水筒，雨具，軍手，
行動食（チョコや菓子パンなど　ガムはダメ）［個人］
【学校】経口補水液ＯＳ－１

11　必要経費　　①磐梯山噴火記念館入場料　４５０円×１６人＝　７，２００円
（引率者の入場料は無料）
②資料代　　３６０円×１８人＝　６，４８０円

# 第１学年　総合的な学習の時間学習指導案

猪苗代町立吾妻中学校　第１学年

本校の総合的な学習の時間テーマ　　ふれあい・よろこび・おもいやり
～１年　自然とのふれあいから学び，自分にできることを実践する　(森林の恵み，働き，保護の方法)～

1　単元名　　磐梯山ジオパーク学習

2　単元の指導計画　（講師：磐梯山ジオパーク協議会の方々）
(1)　オリエンテーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間
(2)　磐梯山ジオパーク事前学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６時間
　①磐梯山ジオパークの概要 (2)　　②火山の噴火のしくみ（実験）(2)
　③フィールドワーク事前学習 (2)
(3)　体験学習（フィールドワーク）・・・・・・・・・・・・・・・・１２時間（２日）（本時）
(4)　事後学習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６時間

3　本時のねらい
磐梯山ジオパーク各エリアを訪ね歩き，世界に誇れる郷土の特徴（自然・森林の役割や恵み）の理解を深めるとともに，防災についての知識も身につける。

4　学習過程

| 学習内容 | 時間(時) | 分担 | ○教師の支援　評価 |
|---|---|---|---|
| 〈フィールドワーク１日目〉 | | | |
| 1　フィールドワークのめあてをつかむ。<br>磐梯山とまわりの大地と自然と人々についての謎を解き明かせ！<br>・活動内容や注意事項について聞く。 | 0.5 | 担任 | (バス内で)<br>・活動内容や場所の特徴を話し，概要をつかませる。また，安全指導を行う。 |
| 2　明治の磐梯山噴火の火山壁を銅沼から観察し，噴火の概要や湖沼群の成り立ちを理解する。 | 3.0 | G・T | (裏磐梯スキー場から銅沼まで移動)<br>・磐梯山周辺の地形や動植物を観察しながら登ることで，生徒の興味・関心を高める。銅沼の水の色と水質を実際に調べ，噴火の影響を確認する。 |
| 3　長坂地区の泥流被害を知り，磐梯山周辺の地形が大きく関係していることに気づく。 | 0.5 | G・T | ・長坂地区は長瀬川流域の低地にいた人のほうが泥流被害が大きかったことを知らせる。 |
| 4　渋谷地区の爆風被害を知り，磐梯山東側の地形の特徴を確認する。 | 0.5 | G・T | ・渋谷地区は爆風で大きな被害にあったが，その中でも作りが頑丈な家は被害がなかったことを知らせる。 |
| 5　見祢の大石を見学し，表磐梯の地形の特徴から大石が泥流で流れてきたことに気づく。 | 0.5 | G・T | |
| 6　東京電力秋元発電所は秋元湖から水路をひいて吾妻地区で発電していることを知る。磐梯山の噴火でできた湖の恩恵により，都会の人々の暮らしを支えていることを知る。 | 0.5 | G・T | ・明治の噴火で被害ばかりがクローズアップされるが恩恵もあることに気づかせる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7　１日目の学習のまとめをする。 | 0.5 | 担任 | ・1日目の学習を通して，明治の噴火の被害状況とそこからどのように復興したか，さらにどのような恵みがもたらされたかの両面について理解させたい。 |
| 〈フィールドワーク２日目〉 | | | |
| 1　磐椅神社と土津神社を見学し，磐梯山の麓の信仰の拠点を訪ねることで当時の人々の思いや人と信仰のつながりに気づく。 | 3.0 | G・T | ・２つの神社の見学を通して，磐梯山や人の信仰のつながりに気づかせる。 |
| 2　天鏡台や猪苗代リゾートスキー場から表磐梯をながめ，磐梯山と猪苗代湖のつながり，さらにそのまわりを取り囲む川桁山地や背炙山地は大地のぶつかりあいによって山地が形成されたこと，さらに翁島は約五万年前の巨大噴火による岩なだれが堆積したものであることなどを知り，大地と人間の関わりをさぐる。 | 1.5 | G・T | ・磐梯山周辺の地形のつくりのちがいに目を向けさせ，それぞれの地形と人間の暮らしとの関わりについて考えさせる。 |
| 3　長浜から猪苗代湖を見学し，猪苗代湖の水はどこからきてどこへ流れていくのかを知る。 | 0.5 | G・T | ・猪苗代湖の水の流れを知り，地形と水とのつながりに気づかせる。 |
| 4　天鏡閣を見学し，明治時代の人々の生活や皇族の生活の様子を知り，現代の生活にどのようにつながっているかを考える。 | 0.5 | G・T | ・明治前期の猪苗代や人々の生活について歴史的建造物の見学を通して知らせる。 |
| 5　２日目の学習のまとめをする。 | 0.5 | 担任 | ・２日間の体験学習を通して学んだことを感想文にしてまとめさせる。 |

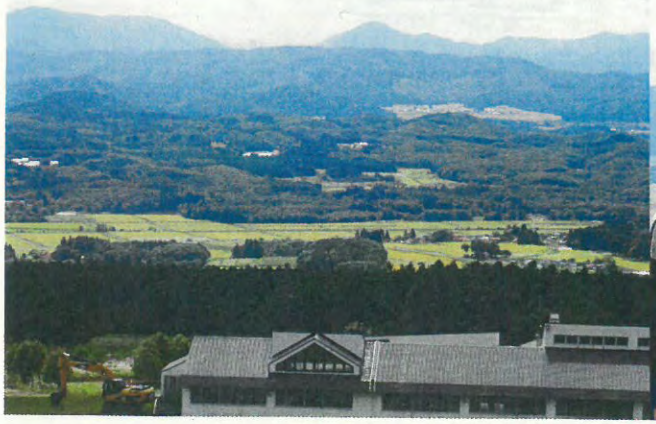
〈資料〉

銅沼

銅沼の水質（ｐＨ）調査

裏磐梯火口壁（裏磐梯スキー場）

見祢の大石



五万年前噴火によるながれ山（翁島方面）

天鏡台から川桁山地，猪苗代湖を眺める

会津美里町立高田中学校

実践例　第１学年　「総合的な学習の時間　テーマ：地域を見つめよう」

1　単元名　森林環境教室　【６時間】

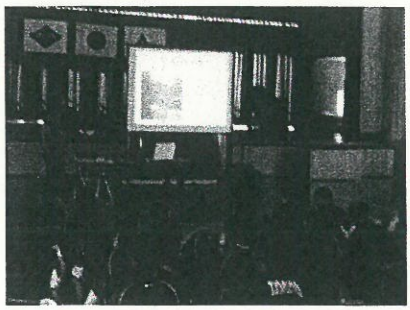
2　単元のねらい

○　地域の自然や環境問題について、主体的に学ぶ態度を身につける。

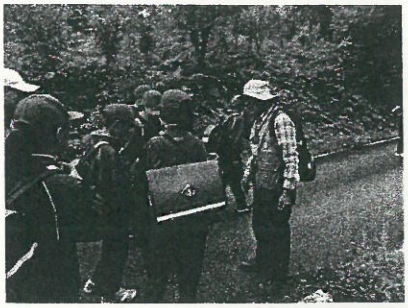
3　活動の流れ

| 時数 | 学習活動・内容 | 時間 | 形態 | ○ 教師の働きかけ　◇ 評価 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 1　学習内容を理解する。<br>蓋沼森林公園の自然を観察しよう。 | ３０<br>(10) | 各学級 | ○「しおり」を配付して、ねらいや活動の流れ等について確認する。<br>・体育館へ移動する。 |
| | 2　全体説明を受ける。 | １０ | 一斉 | ○これからの流れについて説明する。<br>○講師の紹介を行う。 |
| ② | 3　講話を聞く。<br>タイトル：「森林の役割」<br>講師：渡部　圭介さん(福島県森の案内人の会会津支部) | ５０ | 一斉 | ○わかったことなどを「しおり」に記録させる。<br>◇地域の自然や環境問題に興味をもって聞くことができかた。(観察、しおり) |
| ③ | | ２０ | 各学級 | ・バスで蓋沼森林公園へ移動する。 |
| ④ | 4　蓋沼森林公園での観察 | 110 | | |
| ⑤ | （1）開講式 | (10) | 一斉 | ○「森の案内人」１２名の紹介をする。<br>○観察を行う際の注意事項を確認する。 |
| | （2）森林観察 | (90) | グループ | ○「森の案内人」の指示に従い、グループ毎に観察をはじめる。<br>◇積極的に観察に参加できたか。(観察) |
| | （3）閉講式 | (10) | 一斉 | ○生徒代表から「森の案内人」へお礼のあいさつをする。 |
| | | ２０ | | ・バスで学校へ移動する。 |
| ⑥ | 5　学習の振り返りをする。 | ５０ | | |
| | （1）まとめる。 | (20) | 個人 | ○「しおり」にある振り返り用紙に感想や反省を記入させる。 |
| | （2）感想を発表する。 | (30) | 一斉 | ○気づいたことやわかったこと、感想などを発表させる。<br>◇地域の自然や環境問題について主体的に学んでいるか。(態度、振り返り用紙) |

4　活動の様子



〔講話の様子〕



〔森林観察の様子〕

# 第１学年　自然体験活動　実施計画

只見中学校第１学年

１．　目　　的　（１）只見町の自然に触れる体験的な活動[恵みの森散策]を通して、学校目標である「ふるさとを愛する生徒」の育成を図る。

（２）仲間と協力しながら活動することを通して、思いやりや協力の精神を養う。

（３）地域の方を講師としてお招きすることにより、地域の方との交流を図る。

２．　期　　日　平成２９年6月３０日（金）８：３０～１５：００　小雨決行

※川の水量が多い場合は[癒しの森]の散策に変更する

３　内　　容　恵みの森における、ブナをはじめとする樹木や草花、動物、魚の観察

４　講　　師　森の案内人（２名）

５　参加生徒　第１学年　２８名

６　引　　率　目黒寅夫、斎藤　聡、成田　芳、池上　禎一、高原　朗　（５名）

７　輸送手段　スクールバス１台

８　準備物　学校：救急バック、ハンドマイク、ロープ、記録用カメラ、ゴミ袋、トランシーバー

個人：運動着（長）、帽子、カッパ、軍手、靴[濡れてもよいもの]、タオル

着替え[下着、Ｔシャツ、靴下等]、昼食、水筒、リュック、ビニール袋

総合学習バインダー、筆記用具

９．　日　　程

| | |
|---|---|
| ８：１０～　８：２５ | 朝の短学活（出席・健康確認） |
| ８：３０～　８：４０ | 諸連絡※昇降口前 |
| ８：４５ | 乗車・出発 |
| ９：１５ | 恵みの森到着 |
| ９：２０～　９：３５ | 開会式 |
| ９：４０～１１：５０ | 散策 |
| １１：５０～１２：３０ | 昼食 |
| １２：３０～１４：００ | 散策 |
| １４：００～１４：１０ | 閉会式 |
| １４：１５ | 乗車・出発 |
| １４：４５ | 只見中学校到着 |

10.　そ　の　他　・事前指導　総合学習及び前日　（６／２７）　放課後実施

※話を聞く態度、公衆マナー等

・経費　講師謝礼及びバス代は学校及び町負担

# 第１学年総合「伊南川フィールドワーク」実施計画

１　目　的　　身近な自然環境「伊南川」での体験活動を通して、自然豊かな地域のよさを再認識させるとともに、環境保全や地域活性について考えさせる機会とする。

２　日　時　　平成２９年８月２８日（月）　　予備日：８月３０日（水）
※雨天の場合は通常通り月曜日の授業を実施し、水曜日に順延する。

３　場　所　　伊南川　浜野地区内の伊南川流域

４　引　率　　馬場仁子、室井啓永、渡部充明、池上久美子、特別支援教育支援員

５　講　師　　浜野地区活性化委員の皆さん

６　日　程　　（※　詳細に関しては、後日話し合いをします。）

| 日　程 | 活動内容 |
|---|---|
| 8:15～<br>～ 8:30<br>8:30～ 9:20 | 学校出発　バスで移動<br>川の学習体験交流センター　到着<br>注意事項等説明、装備貸与、着替え |
| 前半 | 川に慣れる（川の基本的な知識やラフティングの基本技術） |
| 9:20<br>9:30<br>～ 9:50<br>9:50～11:20<br><br>11:20～11:30 | スタート地点へ移動（バス）<br>川到着（浜野地内）<br>セーフティートーク<br>ラフティング（リバースイミング、ガイドロープ）<br>たき火体験（※　状況に応じて）<br>昼食場所へ移動（バス） |
| 11:30～13:00 | 昼食、休憩（トイレ休憩：川の学習体験交流センター） |
| 後半 | 川を楽しむ（ラフティングで川を下り、途中で川遊び） |
| 13:00<br>13:10<br>～13:20<br>13:20～15:00<br><br>15:00～15:10 | 活動場所へ移動（バス）<br>川到着<br>セーフティートーク（午前中の復習・確認）<br>ラフティング（内川～浜野）<br>途中（砂利取り場付近）で川遊び（水中観察、魚とり等）<br>交流センターへ移動（徒歩） |
| 15:10～15:40<br>15:45～16:10 | 着替え、後片付け、振り返り<br>解散　バスで移動　学校到着 |

７　準備品　　水着、弁当、水筒、タオル、スポーツサンダル(ベルトのあるもの)、着替え（Ｔシャツ、ハーフパンツ等)、登校かばん

８　その他　　雨天順延の際も３０日(水)の予備日も給食はないので、弁当を持参する。

## 第１学年総合「伊南川フィールドワーク」

| 日　程 | 活動内容 |
|---|---|
| 8:15～<br>～ 8:30<br>8:30～ 9:20 | 学校出発　バスで移動<br>川の学習体験交流センター　到着<br>注意事項等説明、装備貸与、着替え |
| 前半 | 川に慣れる（川の基本的な知識やラフティングの基本技術） |
| 9:20<br>9:30<br>～ 9:50<br>9:50～11:20<br><br>11:20～11:30 | スタート地点へ移動（バス）<br>川到着（浜野地内）<br>セーフティートーク<br>ラフティング（リバースイミング、ガイドロープ）<br>たき火体験（※　状況に応じて）<br>昼食場所へ移動（バス） |
| 11:30～13:00 | 昼食、休憩（トイレ休憩：川の学習体験交流センター） |
| 後半 | 川を楽しむ（ラフティングで川を下り、途中で川遊び） |
| 13:00<br>13:10<br>～13:20<br>13:20～15:00<br><br>15:00～15:10 | 活動場所へ移動（バス）<br>川（内川）到着<br>セーフティートーク（午前中の復習・確認）<br>ラフティング（内川～浜野）<br>途中（砂利取り場付近）で川遊び（水中観察、魚とり等）<br>交流センターへ移動（徒歩） |
| 15:10～15:40<br>15:45～16:10 | 着替え、後片付け、振り返り<br>解散　バスで移動　学校到着 |

【班分け】

Ａ班　　Ｂ班　　Ｃ班　３班編成

# あすなろ

第1学年通信　第 14 号
平成29年9月1日(金)
文責　馬場 仁子

## ～ 自然を満喫できました！！ ～

８月２８日(月)は伊南川フィールドワークがありました。少し涼しい日でしたが生徒達は元気に水に飛び込んだり、ラフティングを楽しんだりと、とても充実した１日になりました。

伊南の浜野地区活性化委員６名の方を講師に迎え、川での遊び方、そしておぼれた時の対処の仕方についてわかりやすく教えていただきました。ＡくんやＢくんのお父さんや地域の方が講師だったこともあり、子ども達も安心して行動することができました。

休憩時間に私たちも船艇に乗せていただきました。初めての経験に感動しました！！こういった体験ができる環境にあることは本当に幸せだと思います。生徒達が大人になった時に思い出してほしいと思いました。忙しい中、協力してくださった講師の皆さんにも本当に感謝です。

ウエットスーツを着た生徒達は、それだけでちょっと大人っぽく見えて、かっこよかったです！！

日記より

「初めての体験で緊張したけど、とても楽しかった。伊南川最高！！」

「川の水がとてもきれいだった。身近な川なのに、そのきれいさに感動した。」

「ラフティングを指導できる人が少ないことも知った。もっとみんなに知ってもらいたい。」

【会津若松市立第三中学校】

# 森林環境学習行動予定表

【移動経路】坂内書店前→鶴ヶ城南口（鶴ヶ城体育館側）→本丸
・当日体調が悪く参加できない生徒は、生徒は登校せず、欠席する。
・けが等で、鶴ヶ城まで行くことが可能であれば、救護車で移動し、本丸で待機する。

| 時　　間 | 活　動　予　定 | 場　所 | 学習事項　他 |
|---|---|---|---|
| ８：１０～８：２５ | ・出席確認、健康観察<br>・朝の学活 | 各教室 | |
| ８：２５～８：３５ | ・トイレ休憩 | | |
| ８：３５～８：４０ | ・整列完了 | １階 OS | |
| ８：４０～９：１０ | ・開講式<br>１　開会のことば<br>２　校長先生のお話<br>　ならびに講師紹介<br>３　学年主任のお話<br>４　諸連絡<br>５　閉会のことば | １階 OS | ・本日の活動目的を理解する<br>①世界的な環境への関心が高まる中、身近な森林の環境をつぶさに観察することで、自然環境を守っていくことへの意識を育てる。<br>②心身の発達段階に応じて、自然の恵みに感謝し、自然を愛する精神を育てる。<br>③集団で郷土の自然体験をとおして、豊かな人間性を育成するとともに、しっかりと自己を見つめさせる。 |
| ９：２５ | ・整列完了（男女各 1 列） | 三中駐車場 | |
| ９：２５～１０：００ | ・移動<br>（角田先頭、荒川最後尾） | | ・交通ルール、マナー |
| １０：００～１０：３０ | ・全体講話 15 分程度<br>（講師の先生のお話）<br>・諸注意（生徒指導）<br>・トイレ休憩 | 鶴ヶ城本丸 | ・私たちを取り巻く自然の役割と変化について |
| １０：３０～１２：００ | ・講師の先生と学級ごと<br>・自然観察、学習<br>・プリントへのメモ | 鶴ヶ城公園 | ・身近な自然の営み（観察）<br>・公園内の自然の変化 |
| １２：００～１２：３０ | ・本丸芝地で昼食<br>（学級でまとまって） | 鶴ヶ城本丸 | |
| １２：３０～１３：００ | ・休憩（トイレ休憩など） | 鶴ヶ城本丸 | ・芝地は走り回らない<br>・トイレは管理事務所 |
| １３：００ | ・整列完了（男女各 1 列） | 鶴ヶ城本丸 | ・点呼（学級委員） |
| １３：１０～１３：４０ | ・移動<br>（角田先頭、荒川最後尾） | | ・交通ルール、マナー |
| １４：００～１４：２０ | ・閉講式<br>１　開会のことば<br>２　お礼の言葉（プロ委員長）<br>３　学年主任のお話<br>４　その他<br>５　閉会のことば | １階 OS | ・学習の反省とまとめ<br>・これからの自然との関わり<br>・まとめ方 |
| １４：３０～１５：４０ | ・まとめ学習<br>5/26 まとめ、5/29 発表 | 各教室 | ・まとめ用紙にまとめる |
| 以降　帰りの学活、日直清掃、部活動 | | | |

平成２９年度　総合（郷土理解学習）　**銅沼観察学習実施計画**

総合（１学年）担当
中学校

１　目　　的

（１）磐梯山中腹の銅沼（あかぬま）及びその周辺の野外観察を通して、今も活動している活火山・磐梯山について理解を深める。

（２）火山の専門家を講師に招き、磐梯山の噴火と成り立ちについて学び、理解を深める。

２　実 施 日　　**平成２９年　７月　１１日（火）　１～４校時（５校時：反省・まとめ）**

**※雨天延期の判断→７：３０（延期に備えて、授業の準備もする。）**

**※予備日：７月　１４日（金）**

３　参加対象　　第１学年１４名（男子５名　女子９名）

４　引　　率　　、　　※講師：磐梯山噴火記念館副館長　　さん

５　移動手段　　バス

６　日　　程

| | |
|---|---|
| ８：４０ | 玄関集合→講師あいさつと諸注意→出発 |
| ９：００ | 裏磐梯スキー場到着 |
| ９：０５～ | 銅沼及びその周辺で野外授業（＊集合写真）<br>〔火山のつくりや噴火について知ろう！〕<br>・裏磐梯スキー場の終点から～地震・噴火・被害<br>・銅沼で火山を感じてみよう～噴火口東側スケッチ・歴史・地形・水質 |
| １２：１０ | 裏磐梯スキー場出発 |
| １２：３０ | 学校到着<br>**給食なし・弁当** |
| １３：４５～ | 事後学習（活動の反省・まとめ） |
| １４：４５～ | ６校時普通授業 |

７　持ち物　　筆記用具（色鉛筆も）、下敷き、雨具、飲み物、タオル、帽子、軍手、リュック、長靴（前日雨天のとき）、双眼鏡（家にある場合）、敷物（岩などに座る時に使用）

８　服　装　　ジャージ（長ズボン着用）

９　実施までの日程

| | |
|---|---|
| ６月２６日（月）の週 | 事前打ち合わせ |
| ６月２９日（木） | 事前指導 |
| ７月１１日（火） | 野外学習、事後学習 |
| ９月　３日（日） | 北塩原村総合防災訓練 |
| １２月 | 副館長による火山や噴火についての事後授業予定 |

１０　注意事項

（１）引率の先生並びに講師の先生の指示に従って行動する。

（２）準備をしっかりして参加する。靴は履き慣れたもので、底が厚めのものを履いてくる。

（３）けがをしないよう十分注意する。（坂道、ハチ）

平成２９年度第１学年　森林環境学習「磐梯登山」学習指導計画

猪苗代町立猪苗代中学校

| | |
|---|---|
| 1　目　的 | （1）学年全体及び班集団での活動を通して、集団行動訓練の場とする。<br>（2）友人との交流を図り、好ましい学級及び学年集団づくりの機会とする。<br>（3）中学生としての社会的なマナーや常識的な行動規範を実践させる。<br>（4）磐梯登山を通して、地元磐梯山の自然環境について理解を深める機会とする。 |
| 2　指導計画 | ６月２６日（月）～７月　５日（水）磐梯山についての事前学習<br>７月　７日（金）『伝保人講演会』～磐梯山と登山について～<br>７月１１日（火）全体事前指導　しおり読み合わせ<br>７月１２日（水）『磐梯登山』当日<br>７月１３日（木）事後学習『磐梯登山研修レポートの作成』 |
| 3　登山日程 | ６：４０　校庭集合，出欠確認，健康観察<br>６：４５　出発式<br>７：００　学校出発（貸切バス２台），檜原湖駐車場トイレ休憩（必ず）<br>８：００　八方台登山口到着，集合写真撮影，登山開始<br>１１：３０　山頂到着，人員確認，弘法清水で班ごとに昼食，集合写真撮影<br>１２：３０　下山開始<br>１４：４５　下山完了，人員確認，八方台登山口出発（貸切バス）<br>１６：００　学校到着，帰校式，解散 |
| 4　登山引率 | １４名　（校長、教諭、講師、支援員、伝保人） |
| 5　準 備 物 | （1）服　装：学校ジャージ（中は学校半袖Ｔシャツを着用し，その中に長袖シャツを着用する，下は、ハーフパンツ），必要に応じてウインドブレーカー，履き慣れた滑りにくい運動靴，帽子（タオルを巻くことは厳禁），軍手<br>（2）持ち物：磐梯登山のしおり，リュックまたは学校かばん，筆記用具，<br>タオル，ハンカチ，ティッシュ，<br>昼食，飲み物（水，スポーツドリンク）行動食（ビスケット等）<br>小さなゴミ袋，敷き物，携帯トイレ用小銭<br>カッパ（傘は×），必要に応じて着替えのＴシャツ・靴下，熊鈴<br>必要に応じて，絆創膏，虫ささされ用薬，消毒薬など<br>酔い止めの薬は事前に服用しておく。 |
| 6　確認事項 | （1）伝保人，学年主任を先頭に体力のない生徒から先に登る。<br>前の生徒を追い越さない。各クラスの先頭に伝保人，後ろに教員がつく。<br>（2）登山中に天候が悪くなったり、体調の悪い生徒やけが人が出た場合は、無線で校長に連絡，伝保人と相談し対応する。（学校の無線機６台使用）<br>（3）当日登山に参加できない生徒は、八方台よりバスで「磐梯山噴火記念館」に移動し見学。その後、「五色沼自然探勝路」を周り、終了後は昼食をとり、登山口の原生林を見学、スケッチ，俳句作りをし、バスで待機する。 |

| 7　伝保人による講演会　「磐梯登山」事前学習会 | |
|---|---|
| 1　目　的 | 磐梯登山をするのに大切な心構えや注意、また準備物などを伝保人の方から直接聞いて学習し、磐梯登山に備える。 |
| 2　日　時 | 平成２９年　７月　７日（金）　６校時 |
| 3　場　所 | 猪苗代中学校体育館 |
| 4　講　師 | 猪苗代伝保人会 |
| 5　学習事項 | ○登山のマナー<br>・花や木などの植物を採ってはいけない。<br>・ゴミは持ち帰ること。<br>・登山道以外は通ってはいけない。<br>・登山者とすれ違うときは、自分が山側に寄り道を譲ること。また、マナーの良いあいさつをすること。<br>・前を歩いている人との間隔が広がってしまっても走らないこと。<br>・虎ロープ（黄色と黒のロープ）には近づいてはいけない。<br>・体調が悪くなったら早めに申し出ること。<br>○服装<br>・長袖長ズボンのジャージを着用すること。暑い場合は半袖になっても良いが、中に薄手の長袖を着用すること。<br>・下着の素材は綿でない方がよい。<br>・靴紐は２回結び、ほどけないようにすること。<br>・軍手を着用すること。<br>・登山中、水筒は肩にかけず、リュックの中に入れておくこと。<br>○前日の準備<br>・睡眠を十分にとって、体調を整えること。<br>・リュックや靴には防水スプレーをしておくこと。<br>・大きなビニール袋（ゴミ袋等）に荷物を入れ、リュックにまとめておくこと。<br>・簡易トイレの３００円を持参すること。<br>・飲み物は最低でも５００ｍｌペットボトル２本を持参すること。１本は凍らせておくと良い。<br>・登山食にはゼリー状の飲み物が適している。<br>○その他<br>・檜原湖の駐車場では必ずトイレを済ませておくこと。 |

| 8　磐梯登山「研修レポート」の作成 | |
|---|---|
| 1　目　的 | 磐梯登山を経験し、学んだことや思ったことを、事前学習したこととともに「研修レポート」としてまとめ、文化祭での発表のための資料・準備とする。 |
| 2　手　順 | 一人４ページにまとめる<br>1　表紙　写真を貼る。（Ｐ１）<br>2　研修レポート① ②（Ｐ２、Ｐ３）<br>（1）　まとめのポイントを２つ決める。<br>（2）　タイトル(見出し)を考える<br>①　内容を短い言葉で表す。<br>②　読む人をひきつけるようなタイトル。<br>③　文字の大きさなども工夫する。<br>（3）　レポートの書き方<br>①　これまで事前学習で調べたことを含め、要点をまとめて書く。<br>②「実際に行ってみてどうだったか」「新しくわかったことは何か」などをまとめる。<br>③　資料や磐梯登山の写真を活用する。<br>（4）　良いレポートのまとめ方<br>①　読む人がわかりやすい文字と文章でていねいに書く。<br>②　これまでに習った漢字を正しく使って書く。<br>③　大切な言葉などは、文字の大きさや色などを使って目立つようにする。<br>④　絵やイラストなどを色鉛筆や色ペンで色づけをしてきれいに見やすく仕上げる。<br>3　感想『磐梯登山を終えて』（Ｐ４）<br>事前学習から「伝保人講演会」、磐梯登山を実際にしてみて、「感じたこと」「わかったこと」などをしっかりとまとめる。 |

会津美里町立本郷中学校

# 平成２９年度第一学年森林環境学習実施計画

1　目的　（1）自然にふれあうことを通して、自然のすばらしさを体感するとともに、自然を守ることの大切さを理解する。
（2）集団行動を通して、協調性や公共心を養い、集団の一員としての自覚を高める。

2　期日　平成２９年６月３０日（金）

3　場所および学習内容
（1）　裏磐梯（北塩原村）　五色沼自然探勝路コース
・毘沙門沼をはじめとした神秘的な五色沼をめぐるコース
・全長３．６ｋｍ　所要時間　約７０分
・森の案内人によるガイドつき
（2）　石筵ふれあい牧場（郡山市）
・家畜動物園で飼育している動物とのふれあい体験
＊　小雨決行。
＊　大雨の場合はアクアマリンいなわしろカワセミ水族館および県立博物館見学。

4　参加者　１年生５４名

5　引率者　佐藤直也、渡部輝幸、佐藤靖子、坂内米子、黄　衛（5名）

6　交通手段　貸切バス（中型バス２台）

7　日程
７：５０　本郷中学校校庭集合
８：００　出発式　８：２０　出発
１０：００　裏磐梯高原駅着
１０：１５　トレッキング開始
１１：３０　裏磐梯ビジターセンター前着
１１：３５　裏磐梯サイトステーションにて昼食
１２：０５　出発
１２：４０　石筵ふれあい牧場着
１４：１０　石筵ふれあい牧場発
１６：００　本郷中学校着
１６：０５　解散式　１６：２０　解散、下校

8　経費　＊石筵ふれあい牧場の入場料（一人あたり１２０円）は学年予備費から支出する。
＊旅行保険代金（一人あたり１００円）は総合保険掛金から支出する。
＊交通費、森の案内人のガイド料は町の森林環境事業から補助を受ける。

9　服装　運動着（長袖・長ズボン、中に夏の運動着着用）・白帽、履きなれた運動靴

10　持ち物　昼食、飲み物、雨具（カッパ）、タオル、しおり、筆記用具、
こづかい：５００円程度（ふれあい牧場での飲み物代など）

11　その他　・裏磐梯ビジターセンター　０２４１－３２－２８５０
・石筵ふれあい牧場　０２４－９８４－１０００
・雨天時のカワセミ水族館および鶴ヶ城見学の見学料２４０円（水族館２４０円、県立博物館無料）は学年予備費から支出する。

１学年フィールドワーク

# 「高清水(ひめさゆり群生地)散策」の実施計画

１学年総合学習担当

１　目　　的

（１）自然豊かな「地域」のよさを再認識させるとともに、自分たちの住むふるさと南会津の環境保全の大切さについて考える契機とする。

（２）自分が見つけた自然との出会いを詩や俳句、写真やスケッチなどで表現し、発表し合うことによって学びを共有し、深化させる。

２　日　　時　　６月３０日（金）１～６校時　　予備日７日（金）

※雨天の場合は、通常通り金曜日の授業を実施し、７月７日に順延する。

３　場　　所　　高清水公園

４　引　　率　　馬場仁子・渡部充明・菊池智美

５　交通手段　　○学校から高清水まで　　町スクールバス

○高清水公園から４０１号線まで　徒歩

○４０１号線から学校まで　　町スクールバス

６　講　　師　　検討中

７　日程および経路

| | |
|---|---|
| ８：１５ | 通常通り登校 |
| ８：１５～　８：２５ | 健康観察・諸連絡 |
| ８：３０ | 学校出発 |
| ８：５０ | 高清水到着 |
| ９：００ | ひめさゆり群生地見学 |
| １０：００ | 高清水公園内散策 |
| １２：００～１３：００ | 昼食 |
| １３：２０～１４：００ | 散策～バス乗車 |
| １４：２０ | 学校着 |

※「ひめさゆり群生地」見学後、徒歩で高清水遊歩道などを散策しながら休憩所へ移動し、班ごとに公園内で昼食をとる。その後スキー場に向かって移動してバスに乗車する。(その距離およそ３キロ)

８　準備品

登校リュック、ジャージ、履き慣れたシュース、弁当、水筒（水分補給分も含め)、タオル、帽子、雨具、敷シート、各自表現活動に必要なもの(デジカメなど)

９　事後指導

・詩や俳句、写真やスケッチ等の作品を作る。またそれらの作品については、コンテストへの出品や文化祭での展示をすることを考えている。

# あすなろ

第1学年通信　第 11 号
平成29年7月4日(火)
文責　馬場 仁子

## ～ ひめさゆりに感動！ ～

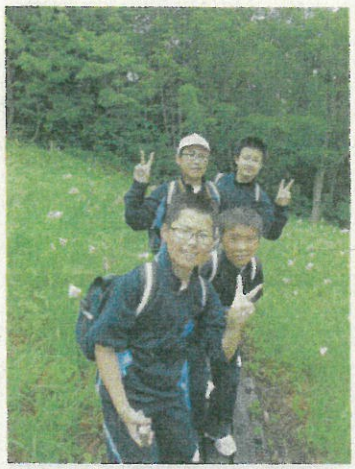
６月３０日(金)は、高清水公園フィールドワークを行いました。小雨の中の出発となりましたが、今年最高の開花日でしっとりと雨で潤う美しいひめさゆりに生徒達も見入っていました。

新種の白いひめさゆり、１本に９つの花をつけたひめさゆりを見つけたり、ヤマナメクジやヒキガエルに歓声を上げたりなど、様々な感動を味わってきました。日記にも様々な感想が寄せられました。

**「ひめさゆりをじっくり見たのは初めてだったので、とてもきれいで感動しました。」**
**「自分の住んでいる町にこんなに素敵な場所があることを知ることができてよかった。」**
**「木道を歩くのも楽しかったし、雨も降っていたからか、空気がおいしかった。」　など**

その後、森の休憩所でお弁当を食べ、遊歩道の散策をしました。アスレチックを見つけてぶら下がってみたり、地図を見ながらとはいえ初めての道なので迷子になったり、みんなで「だるまさんが転んだ」で盛り上がったり、、、話は尽きません。生徒達の自然を満喫しようとする気持ち、地元のよさを体感しようという姿勢を見られたことはとてもよかったです。筋肉痛になった甲斐がありました。

文化祭で写真を展示したり、郷土のＰＲ作戦を発表したりすることになりますので、楽しみにしていてください。



＊　こういった素晴らしい自然環境を守ってくださる方々がいるということも、学ぶことができました。

# 森林環境学習について

**会津若松市立第二中学校**

１　ねらい

　地域の自然や歴史、環境について体験学習を通して理解を深め、自然を愛し環境を守ることの大切さを学ぶ。

２　参加者

　１学年（８６名）

３　実施日

　平成２９年６月３０日(金)

　※荒天時予備日７月１１日（火）

　※７月１１日（火）が雨天の場合　五色沼・磐梯山噴火記念館見学予定

４　引率者

　三浦・大瀧・室井・菊池ゆ・長澤・石田・一条・青柳・菊池恵（９名）

５　講　師

　事前学習講師　教頭先生・大瀧　博先生・

　現地講師　　大瀧　博先生　　もくもく自然塾

６　テーマ

　『雄国沼の歴史、自然環境を知る。』

７　活動場所

　北塩原村雄国沼周辺

８　移動方法

　貸切大型バス２台（会津交通観光）・緊急車両２台（職員乗用車借上）

９　日　程

　前日　　実施判断（校長、教頭、三浦、大瀧、菊池）

　　延期の場合、関係機関に電話連絡。

　　○バス会社、鶴ヶ城会館駐車場、もくもく自然塾

　　○昼休み、生徒に延期を知らせる。金曜日の普通授業。

　７：１５　駐車場（鶴ヶ城会館）集合・点呼

　７：２０　出発式（諸連絡程度）

| | |
|---|---|
| １号車４７名 | １組２８名　＋　３組１５名　三浦、大瀧、長澤、菊池 |
| ２号車４７名 | ２組２９名　＋　３組１４名　石田、一条、室井、写真館 |
| 緊急車両 | 菊池恵、青柳 |

　７：３０　出発　国道４９号・県道１２１号経由

　　裏磐梯「道の駅」でトイレ休憩

　９：２０　雄子沢登山口駐車場着　点呼・健康観察・準備運動後に登山開始

　９：３０　雄子沢登山口（標高約 800 メートル）より「せせらぎ遊歩道」登山開始

　　先導-もくもく自然塾・大瀧・長澤・１組・三浦、石田・２組・菊池ゆ、一条・３組・室井・青柳

１１：１０　山小屋到着・点呼

１１：２０～１２：００　昼食・休憩・トイレ

①　到着に時間差があるので、学級毎に昼食をとる。

〔留意点〕

ア．山小屋の中及びその周辺で昼食をとり、体調確認を行う。

イ．ゴミを落とさない、食べ物の汁も落とさない。

ウ．他の登山者へのマナーを守る。

エ．施設使用料は、委員長がまとめて納付する。

②　集合写真撮影

１２：１０　コース別集合出発＜１・５時間＞

①　コースごと整列・点呼

②　ケガや体調の悪い生徒がでた場合は、山小屋周辺散策とする。監督は緊急車両担当者とする。

〔ジャイアンコース（雄国山頂　標高 1,231 メートル)〕

引率者：先頭-大瀧、中間・長澤、最後尾-一条・青柳

〔しずかちゃんコース（雄国沼散策　標高 1,100 メートル)〕

引率者：先頭-もくもく自然塾・菊池、中間・石田、最後尾-室井、三浦

（菊池恵･･山小屋周辺監督）

１３：４０　山小屋着・点呼・トイレ休憩

１４：００　山小屋発

先導-もくもく自然塾・大瀧・長澤・１組・三浦、石田・２組・菊池ゆ、一条・３組・室井・青柳

１５：３０　雄子沢登山口駐車場着 点呼

１５：４０　出発　　裏磐梯「道の駅」トイレ休憩

１７：００　駐車場着（鶴ヶ城会館）

下車後、速やかに二中へ移動し、解散式（諸連絡のみ）

10　持参物

□しおり □筆記用具（ペンのみ）　□メモ用紙　□背中に背負えるカバン　□帽子（黒色は避ける）　□軍手　□タオル　□ジャージ（学校指定半袖運動着、長袖長ズボン）

□着替え　□ゴミ袋　□弁当（ゴミのでない工夫）　□飲料水（ゆとりのある量）

□高カロリーの固形携行食（下山完了まで保管）

□はき慣れた運動靴（汚れても濡れてもよい、すべらないもの。またはﾄﾚｯｷﾝｸﾞｼｭｰｽﾞや靴底が厚くハイカットの靴がある人はそれでもよい。）

□カッパや夏用ウインドブレーカーなど雨を通さない物（傘は使わない）

□自分の薬品（虫よけスプレー、帰りの酔止め薬、頭痛薬、胃薬、下痢止等必要な物）

□トレッキング用のストックを持っていっても良いが自己責任で管理すること。

□カメラを持っていっても良いが自己責任で管理すること。

□学年持参物　トランシーバー７機、無線、ゴミ袋、AED、医薬品（傷バン、虫ささされ等引率者それぞれに持つ)、カメラ

11　必要経費

| | |
|---|---|
| バス代 | １７２，８００円 |
| 森林環境学習交付金（市補助）▽ | ８０，０００円 |
| わくわく自然塾・講師料 | １９，０００円 |
| 山小屋使用料 | ９，５００円 |
| 雑費 | ４，７５０円 |
| 予備費 | １１，２８６円 |
| 合　　計 | １３７，３３６円 |

（生徒一人あたり　１，５００円学年会費で集金済　合計１２９，０００円）

（引率者集金　合計　８，３３６円）

12　事前・事後学習

（１）説明会・講演会・レポート作成

| | 活　動　内　容 | 備　　考 |
|---|---|---|
| ① | ６月１２日（月）６校時<br>・森林学習について　（菊池）<br>・講演（４０分）<br>「森林環境について、マナーと緊急時の対応について」 | はだしの広場<br>講師<br>大瀧　博先生 |
| ② | ６月２０日（火）６校時<br>「裏磐梯の自然・地形・歴史、雄国沼散策について」<br>・残り５分　　選択コース希望アンケート | はだしの広場<br>講師<br>教頭先生 |
| ③ | ６月２８日（水）　学年集会<br>・準備物や注意事項など事前指導 | はだしの広場 |
| ④ | ７月３日（月）（２時間）<br>・個人レポート作成をする。 | |

（２）掲示教育

①　掲示内容

ア　裏磐梯の生物（動物・植物）　イ　磐梯朝日国立公園　ウ　湿原の形成

②　掲示場所

ア　英語メディア（1 学年の生活エリア）

13　緊急の場合の対応

（１）緊急車両

①　雄子沢駐車場に車両を待機させる。

（２）ケガ・病気への対応

①　登山当日までに、骨折などで登山できない場合

学校で学習（会議室）

②　登山前に具合が悪くなった場合

バスに待機し、緊急車両担当者が付きそう。

③　登山中に軽いけがをした場合

引率者それぞれが持つ薬品で応急処置

④　登山中に登山を続けられないようなけがや病気の場合

下山し、緊急車両にて病院へ搬送する。その際は緊急車両担当者と他 1 名の教諭で下山する。

⑤　動けなくなるようなけがや病気の場合

引率教師が背負える場合には、背負って下山する。その際は教諭 2 名以上の対応とする。または、近くの引率教師に託して、引率教師一人が連絡のため、携帯電話が通じるところまで下山し、消防署などに救助を要請する。

（３）地震発生時

①　発生規模や下山ルートの状況によっては一切の活動を中止し、適切な下山方法を検討する。

（４）選択コース活動中における登山グループと湿原グループ間の連絡方法

①　三浦先生（１台）　雄国沼担当者（２台）・雄国山登山担当者（２台）・養護教諭（１台）・山小屋担当者（１台）はトランシーバーを携帯する。

（５）天候急変時

① 雷雨・濃霧発生時は行程を中止し、状況に応じて待機または下山する。

14 定時投薬が必要な生徒への対応

（１）養護教諭と行動を一緒にする。

（２）登山途中で簡易な仕切を設営し、定時に落ち着いて投薬できるように配慮する。

15 登山時の安全確保

（１）野生生物について

① 人間が集団で行動し、熊鈴を付けていても、被害に遭う事例が発生している。登山道及びその周辺の樹皮の爪痕やフンなどの痕跡よく観察する。また、遭遇時の対応を事前学習時に周知させておく。

② スズメバチの巣近くでのフォバリングや警戒音に注意し、発見時は近づかないように後続者に伝達する。

③ ウルシが山道にある場合には、注意を後続者に伝達する。

（２）遭難事故防止

① 学校行事の登山において遭難事故が発生しているので、点呼を確実に行う。

② 登山中の人員の間隔を広くしない。また、適切に休息を入れて集団の態勢を整える。

③ 最後尾の引率者より後に生徒を残さない。

16 関係機関一覧

| 関係機関 | 電話番号 | 備考 |
|---|---|---|
| 会津若松市教育委員会 | 0242－39－1303 | |
| 会津教育事務所学校教育課 | 0242－29－5320 | |
| バス委託業者 | 0242－24－6611 | 会津交通 |
| 鶴ヶ城会館 | 0242－28－2288 | 駐車場借用 |
| もくもく自然塾 | 0241－23－9018 | 裏磐梯 |
| サイトウ写真館 | 0241－24－0567 | |
| 福島県立医科大学会津医療センター | 0242－75－2100 | 河東町谷沢字前田 21 番地 2 |
| 猪苗代町立猪苗代病院 | 0242－62－2350 | 猪苗代町大字千代田字中島 26-2 |

平成２９年度　総合（郷土理解学習）

# 早稲沢農業体験学習実施計画

総合（１学年）担当
中学校

１　目　　的
（１）北塩原村の地場産業の１つである高原野菜づくりについて見学・体験することにより、栽培と私たちの生活が、自然環境をとおして密接につながっていることを理解する。
（２）農家の方の指導を受けて、実際に収穫作業等を体験することにより、地域及び地場産業についての理解を深める。

２　実 施 日　　平成２９年９月２５日（月）　１校時～４校時　（反省・まとめ含む）
※雨天延期については、朝７：３０に判断し、学校から連絡を入れる。
生徒には、延期に備え授業の準備もさせる。

３　場　　所　　早稲沢地区　農家（３軒）
担当：民宿「やませ」　　さん　　桧原字早稲沢

４　参加生徒　　第１学年　１４名（男子５名　女子９名）

５　引　　率　　、

６　引率方法　　村バス（運転手：　　さん）

７　日　　程

| | |
|---|---|
| | 短学活を早めに行い、準備 |
| ８：３０ | 玄関集合後、出発 |
| ８：５０ | 早稲沢　民宿「やませ」到着 |
| ８：５０～　９：００ | 挨拶・諸注意・早稲沢の農業についてのお話 |
| ９：００～１１：２０ | 各班に分かれて　農業体験学習（約２時間半） |
| １１：３０ | 集合・挨拶・早稲沢出発　（※集合写真） |
| １１：５０ | 学校到着 |

８　持 ち 物　　**服装はジャージ（長袖・長ズボン）、帽子、長靴、軍手、飲み物、タオル**

９　学校で準備する物　　カメラ、救急用品

10　実施までの日程
９月２２日（金）　事前指導（SUT の時間）：活動の目的・内容の説明

11　注意事項
（１）準備をしっかり行い、当日は引率の先生並びに各班の農家の方の指示に従う。
（２）こまめに水分補給を行いながら作業に取り組む。
（３）けがをしたときや虫にさされたときは、先生や農家の方に話す。

12　班編制　　２班編成（各班７人）※班分け、班長は後ほど決定

猪苗代町立東中学校

# 平成２９年度　森　林　教　室（総合的な学習の時間）

１　目　　的

（１）木材加工を通して木に親しみ、その技術を継承しようとする態度を育成する。

（２）地域住民、ボランティア等と連携を図りながら、森林の働きを理解する。

（３）地球温暖化防止に果たす森林保全の役割を理解する。

２　日　　時　　平成２９年６月１６日（金）　　５・６校時

３　場　　所　　東中学校　多目的ホール、技術室

４　講　　師　　会津若松地方森林組合様　　計３名

５　参加生徒　　１学年生徒　　３２名

６　日　　程

集合　　１２：５０　　場所：多目的ホール

１　開講式　　１３：００　　進行（　担任　）

①　開会のことば　　（　学級委員長　）

②　講師紹介　　校　長

③　日程説明　　学年担当

④　諸連絡　　（　担任　）

⑤　閉式のことば　　（　学級副委員長　）

２　森林学習　　１３：１０～１３：４０　場所：多目的ホール

３　プランター作成　　１３：４５～１５：１５　　場所：技術室

４　閉講式　　１５：２０～　　進行（ 担任 ）

①　開会のことば　　（　学級委員長　）

②　講師の先生からの講評　　森林組合 様

④　お礼のことば　　（　生徒代表　）

⑤　諸連絡　　（　担任　）

⑥　閉式のことば　　（　学級副委員長　）

７　注意すべきこと

（１）工具の使い方を理解させ、安全面に注意させる。

８　服装・準備物

生徒：○運動着　　○かなづち（学校備品）

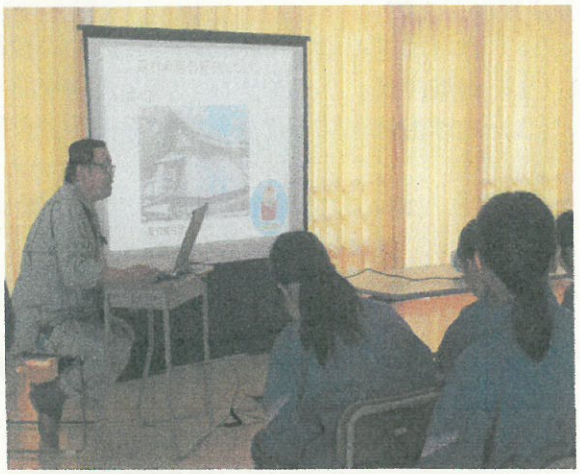
教師：○デジタルカメラ　　○プロジェクター

９　その他

（１）森林学習を２０～３０分程度実施してから、プランター作成を行う。

プランターの材料費は一人（１２００）円かかる。

１０　資料（活動の様子）



**森林環境学習指導案**

**教科名**：総合的な学習の時間

**単元名**：テーマ「　地域を知ろう　」

**実施学年**：１学年（生徒２０名、引率教諭２名）

**本時の目標**：「　南会津地域の自然環境を知る　」

**学習過程**

| 学習活動 | 時間 | 教師の支援 | |
|---|---|---|---|
| | | 授業者 | 指導者 |
| 1　課題を把握する。<br>実体験とガイドさんの話を聞き、森林について考える。 | ５分 | ○　事前学習とのつながりを意識させる。 | |
| 2　ガイドさんの話を聞く。<br>・　注意点<br>・　ポイント<br> | １０分 | ○　生徒が理解しているかどうか実態を把握する。（質問、声かけ） | ○　森林学習の注意点（安全面）と学習のポイントを説明する。 |
| 3　田代山登山（特殊な森林の学習）<br>・　実体験<br>・　山頂だけではなく、途中の森林も学習する。<br> | ５時間 | ○　様子を見てメモをさせる。<br>○　説明の中で特殊な生態などがあれば、一緒に共感する。 | ○植物や生態について実物を用いて説明する<br>○森林や自然に対しての思いを伝える。 |
| 4　本時の学習を振り返り、気づいたことや感想をまとめる。<br> | １０分 | ○　事後学習や文化祭での発表を意識させ、細かくメモをとらせる。<br>○　メモした内容や考えたことを確認する。<br>（観察、質問） | ○　本時の反省点を伝える。 |

# 森林整備活動体験

Ｔ１　鈴木弥生　　ＧＴ森林組合の講師
Ｔ２　作田理香

授業計画　間伐体験

1　単元名　　「間伐材の活用」

2　本時のねらい

○　環境を守る森林の働きを理解するために、間伐の意味と必要性を学び樹や森を育てることの重要さや森林のはたらき、林業について関心を持たせる。

○ 専門的な立場から県の林業事業と環境問題、リサイクル・エコ活動等についての知識・理解を深める。

3　活動の流れ

| 学　習　内　容 | 時間(分)) | ○教師の支援　※評価 | |
|---|---|---|---|
| | | Ｔ１　Ｔ２ | ＧＴ |
| 1 森林のはたらきについて学習することを確認する。<br>・間伐を行なう訳<br>・森林を守るため | 5 | ○昨年まで行なっていることを説明する。 | ○森林のはたらきについて説明する。 |
| 2 杉林を見て感じていることを話し合い、間伐の必要性を理解する。<br>・草が生えていない。<br>・暗い<br>・木がたくさんある。 | １０ | ○間伐の必要性に気づかせるような言葉かけを行なう。 | ○間伐の必要性について具体的に説明する。 |
| 3 間伐材を活用したプランターの製作を行なう。 | ７０ | ○安全面に配慮させ、作業手順を確認させる。 | ○作業の注意事項や手順、用具の使い方の説明をする。 |
| 4 プランターの製作をしての感想を発表をする。 | １５ | ○ワークシートを用意し、学んだこと、感じたことを記入させる。 | ○森林の保存についてまとめて説明をする。 |

# 平成２９年度　森林環境教室実施計画

玉川村立泉中学校

１．目　的　　専門的な立場から県の林業事業と環境問題、リサイクル・エコ活動等についての知識・理解を深める。

２．日　時　　平成２９年１１月　８　日（水）　５・６校時　　１３：４０～１５：３０

３．場　所　　玉川村立泉中学校　技術室

４．参加者　　第１学年　生徒　４９　名　　教師　４　名　　計　５３　名

５．講　師　　ふくしま中央森林組合石川事業所職員　　名

６．事業所　　ふくしま中央森林組合
　住所　福島県田村郡小野町大字小野新町字知宗５９番地２
　ＴＥＬ　０２４７－７１－０７５５　　ＦＡＸ　０２４７－７１－０７５６
ふくしま中央森林組合石川事業所
　住所　福島県石川郡石川町大字北山字閼場１１５
　ＴＥＬ　０２４７－２６－３４１７　　ＦＡＸ　０２４７－２６－３４２９

７．内　容

進　行（　鈴木　）

〔開講式〕
①開会のことば（　　）
②学校長あいさつ・講師紹介
③閉会のことば（　　）

〔森林環境教室〕
①講　話
②間伐材を使っての製作品作り　（　　）

〔閉講式〕
①開会のことば（　　）
②お礼のことば（　　）
③閉会のことば（　　）

８．準　備
①講師派遣申請　②講師謝礼　５，０００円　（教頭Ｔ準備）
②使用教材費用　（　　円　×　名＝　　円：教頭Ｔ準備）
③道具（　　）

９．その他　●服装はジャージとする。　●２年生が職場体験のため部活動は実施しない。

# 社会科学習指導案

平成２９年５月２５日（木）
場　所：学校敷地内
授業者：担任
　　Ｇ・Ｔ　もりの案内人

1　単元名　校舎敷地内の樹木と草花の調査観察
2　本時のねらい
　○校舎施設と周辺環境を配慮して建設された庭園のすばらしさを、樹木の観察を通して発見し、身近な樹木についての知識や理解を高め、体験活動を通して、環境問題に関心を持たせる。
3　活動の流れ

| 学　習　内　容 | 時間 | 分担 | ○指導・支援の留意点　※評価 |
|---|---|---|---|
| 1　開会行事<br>・敷地内の樹木観察会の目的<br>・森の案内人の紹介（２名）とあいさつ<br>・観察ボードとワークシート配付、使用方法についての説明 | 10 | 学年主任、担任 | ○本校敷地内に見られる数多くの樹木について、その名前や由来、特徴、使用目的など注意深く聞き取り、ワークシートにまとめるよう指示する。 |
| 2　校舎敷地内に何種類くらいの樹木が植えられているか、また知っている樹木はあるか確認する。 | | もりの案内人 | ○学校新設の際、計画的に約３０種類の樹木が植えられたこと、その種類が県内の中学校では最大規模であることを説明する。 |
| 3　樹木を観察する（学級ごとにフィールドワーク）。<br>・もりの案内人の説明をもとに樹木の名前を予想し、ワークシートに記入する。<br>ケヤキ、エゴノキ、ナナカマド、ヤマボウシ、ツゲ、シラカバ、イロハモミジ、ナツツバキ、コウヤマキ、イチョウ、サルスベリ、ウメモドキ、アカマツ、モミ、サラサドウダン、アオダモ、タニウツギ、スズカケ、ネズミモチ、ニシキギ、アジサイ、メタセコイア、ヤブツバキ、ニレ、クリ、テマリカンボク | 60 | 担任<br>もりの案内人 | ○もりの案内人の説明をしっかり聞き、注意深く樹木を観察するよう声かけを行う。また、安全面配慮させる。<br>○樹木番号順に木々の紹介をし、答えのヒントを提示する。<br>※ヒントをもとに、木々の名前を予想することができたか。（観察、ワークシート）<br>～ヒント（例）～<br>・福島県、　　村の木<br>・　　中学校のシンボルツリー<br>・野球のバットの用材として使用される<br>・絶滅したと考えられていたが、1945 年に中国で発見され、各地に広がった |
| 4　樹木観察のまとめ<br>・学習の振り返り、正解の発表<br>5　閉会行事 | 30 | もりの案内人 | ○もりの案内人から樹種の確認を行い、泉崎中学校敷地内の樹種の多さを再確認させる。 |
| 事後指導<br>植物観察のまとめを行う。<br>・学習した樹木の配置をそれぞれ特徴と合わせイラストマップにまとめる。 | 2時間 | 担任 | ○観察会時に撮影した写真や植物図鑑、校舎の配置図を提示し、イラストマップにまとめさせる。<br>※意欲的に活動することができたか<br>（イラストマップ） |

# 木材の特徴

授業実践例　中学１年生（技術・家庭科）

１．　単元名　材料と加工法　木材の特徴

２．本時の目標

○　木材の基本的な特徴を調べ、その特長を生かした利用方法を知る。

３．学習過程

| | 学習活動・内容 | 形態（時間） | ○指導上の留意点 |
|---|---|---|---|
| 課題把握 | １．学習課題を把握する。<br>木材の基本的な特徴を調べ、その特長を生かした利用方法を知ろう | 一斉（５） | ○今後の設計・製作に生かすために木材の特徴と性質、利用方法について学習することを伝える。 |
| | ２．木材について、これまでの経験や観察から気づいた特徴を話し合い、発表する。<br>・見た目や手触り重さなどについて話し合う。 | ｸﾞﾙｰﾌﾟ（１０） | ○気づいた特徴を発表させ、それらを分類し、次の活動へとのつながりを持たせる。 |
| 課題解決 | ３．木材の一般的な特徴について調べる。<br>・実際の見本の木材を見ながら木材の特徴や各部の名称を調べる。<br>・実際の木材の繊維方向による強さや変形の仕方を調べる。<br>・針葉樹と広葉樹の違いとそれぞれの利用例を調べ、ほかに利用されている例や、利用場面などを発表する。 | 一斉（１５） | ○まさ目材、板目材、こぐち、こばは、製作にも関わるので必ず押さえさせる。<br>○節が枝の跡であることを知らない生徒が多いので触れる。<br>○木材の強度異方性や木材の変形について説明しまとめさせる。<br>○密度の違いや見た目の違い、加工法について説明し、それを生かした利用法についてまとめさせる。 |
| | ４．木質資源の有効利用方法についてまとめる。 | 一斉（１５） | ○環境的側面から木質資源は、植栽した樹木の枝打ちや間伐など適切な森林管理を行い、計画的に生産・利用することによって、再生可能な資源となること、無駄なく資源が有効活用されていることを資料を利用しながら説明する。 |
| まとめ | ５．木質材料の特長を生かして利用されている製品についてまとめる。 | 一斉（５） | ○実際の製品に使われている理由を、木材の特徴を踏まえて説明し、まとめさせる。 |

# 森林環境学習指導案

中３９　いわき市立田人中学校

１　学年・教科　　１年　技術

２　単　元　名　　生活に役立つものづくり（木工）１１時間
①「コースター」作り　４時間
②「本立て」作り　　７時間

３　本時のねらい
○木を使って生活に役立つものづくりを行うにあたって、実際に学校林から切り出した間伐材を使ってコースターを製作することで、木の特性を知るとともに間伐の必要性を知る。

４　活動の流れ（コースター作り→本立て作り）

| 学　習　内　容 | 時間 | 教　師　の　支　援 |
|---|---|---|
| １　森林の働きについて知っていることを話し合う。<br>・保水と洪水の防止<br>・木材としての活用<br>・水の浄化 | | ○小学校の理科等で学んだことや持っている知識を振り返らせ、 |
| ２　間伐材（ヒノキ）を見て感じたことを話し合う。<br>・固い<br>・香りがいい | １ | ○木材が生活に役立つものであることに気づかせ |
| ３　間伐の役割を理解する。 | | ○間伐があることで木が良く育ち、材木として活用できるようになることを知らせ、間伐の重要性を理解させる。 |
| ４　身近な木材を使って作れるものを知る。<br>①間伐材を使ったコースター<br>②集成材で作った本立て　　等 | １ | ○先輩が製作した木製コースターや本立てを見せ、木材で生活に役立つものを作れることを理解させる。<br>○コースター作りを行うことで木の特性や道具の使い方に慣れさせる目的があること、また、その後に本立て作りを行うことを知らせ、活動への意欲を持たせる。 |
| ５　コースターの作り方を知る。<br>①間伐材を切る<br>②道具を使って削る<br>③サンドペーパーで磨く<br>④焼き印を押す | | ○コースター作りを通して、木の特性に慣れさせる。<br>○コースター作りに使う道具とその使い方を説明し、製作の手順を理解させる。<br>○木の特性を知り、道具の使い方を身につけることは、本立て作りに生きることを理解させる。 |
| ６　コースターを製作する。 | ２<br>本時 | ○道具の使い方に注意させ、示した手順に合うようにコースターを作らせる。 |
| ７　本立てを製作する。 | ７ | ○木の特性をよく理解させた上で、生活に役立つものとしての本立て作りに臨ませる。 |

# 授業の写真（田人中学校）No１　　中 39

間伐材の切断

コースター作り

本立て作り　①

本立て作り　②

本立て作り　③

総合学習（中学２年　合計５時間）
森林環境学習

1　単元名　玉川村の森林の役割と今後　　玉川村立須釜中学校

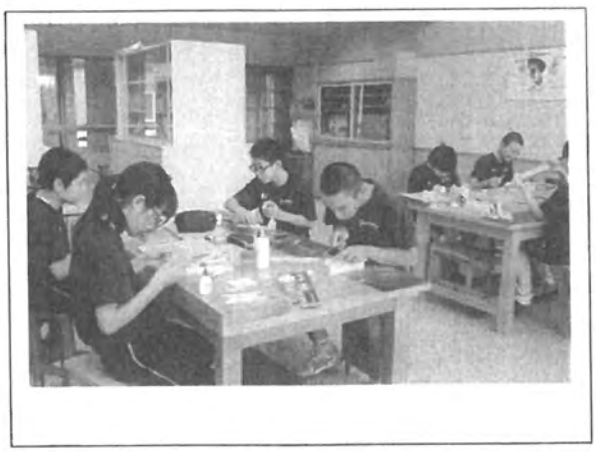
2　本時のねらい　　T１　　G・T

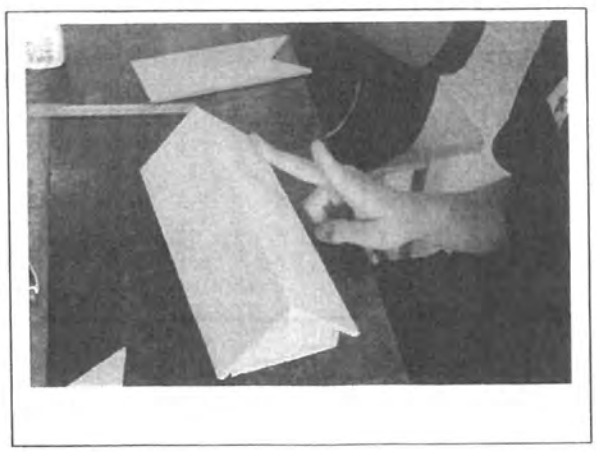
○　環境を守る森林の働きを理解するために、実際に森林組合の方を講師に招いて学校のある玉川村の森林を例に、木や森を育てることの重要さや森林のはたらき、そして林業について関心を持たせる。

3　活動の流れ

| 学　習　内　容 | 時間 | 分担 | 教師の支援　※評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 担　任 | G・T |
| 1　本時の活動内容を確かめる。<br>玉川村の森林の未来を考えよう | 5 | T１ | ・総合的な学習の時間における自分のテーマと森林と木材の活用についての考えを発表させる。 | |
| 2　GT による自己紹介（林業　の仕事に就いた理由）を聞く<br>・　森林組合とは<br>・　職員と作業員の違い<br>・　林業の仕事とは | 5 | GT | | ・高校時代の職場体験が今に繋がっている。 |
| 3　私たちの生活と森林<br>森（森林）は様々な働きで、安全で安心な暮らしを支えていることを知る。 | 10 | T1 | ・今までに学んだことを思いださせ発表させる。 | |
| 4　森林の働き<br>①山崩れを防ぐ<br>②水を蓄えきれいにする<br>③ﾚｸﾚｰｼｮﾝの場<br>④木やキノコの生産の場<br>⑤地球温暖化を防ぐ<br>⑥多様な生き物のすみか<br>⑦防風林・空気の浄化 | 10 | GT | | ・資料を基に考えさせ、意見を発表させる。 |
| 5　林業という仕事<br>①地ごしらえ<br>②植栽（植林）<br>③下刈り<br>④ツル刈り（つる切り）<br>⑤枝打ち<br>⑥間伐<br>⑦主伐<br>⑧玉切り<br>⑨搬出・運搬 | 10 | GT<br>T1 | ・机間巡視をしながら資料について行けない生徒に補足説明をする。 | ・資料を基に具体的に説明する。 |
| 6　間伐と環境保全<br>・間伐がこれからの日本の林業を再生する近道であることを知る。 | 5 | T1 | ・これからの林業について経済的な利益を出すことが間伐と | |
| 7　本時の学習を振り返る。 | 5 | T1 | ・今日学んだことや感想を成果シートに記入させる。 | |

この授業をオリエンテーションとして、その後の４時間で木材の利用とうことで、薄い板や端材を使ってハウス形のペンケースと小物入れの作成をする。（別紙写真）





# ２年森林環境学習実施計画(案)
## ～総合的な学習の時間～

中学校

１　ねらい

（１）森林のもつ国土保全や地球温暖化防止などの多面的機能を理解し，森林資源を適切に整備しながら循環的に利用していくことの大切さを学ぶ。

（２）地域の自然や歴史，環境について体験学習を通して理解を深め，自然愛護，環境保全の心を育てる。

（３）北塩原村の自然景観を代表する檜原湖畔の自然を観察し，郷土の自然と歴史・文化に誇りをもつ。

**２　実施学年**　　２学年（１１名）

３　実施日　　平成２９年９月１２日(火)【小雨決行】　予備日：９月１３日(水)
※なお，大雨・荒天時には，６時に緊急連絡網で順延の連絡をする。
また，学校配信メールでも通知する。

４　引率者

５　講　師　　裏磐梯エコツーリズム協会　　様　　様

６　学年テーマ　　『北塩原村の地域の特性と歴史を知る』
**（単元名）**

７　活動場所　　北塩原村北山・大塩・裏磐梯地区周辺

８　移動方法　　村バス

９　日　　程

学校発 ―― 柏木城（現地説明・見学） ―― 旧米沢街道【八丁壇の一里塚
8:30　バス　8:45～9:45　バス　10:00　徒歩
（トイレ）
萱峠茶屋跡　中ノ七里一里塚　一ノ渡戸古戦場　蘭峠　穴沢一族五輪塔
11:10　バス　（車窓より）
大山祇神社】 ――― 桧原歴史館見学 ――― 昼食（湖辺で　雨天：ｻｲﾄｽﾃｰｼｮﾝ）
11:30～11:50（トイレ）　12:00～12:40
裏磐梯ｻｲﾄｽﾃｰｼｮﾝ（守り狐の制作・散策） ―――――――――――
13:30～15:00　（トイレ）　バス
学校着・解散（※　　方面途中下車）
15:40

10　持参物　　【個人】筆記用具，リュックサック，タオル，弁当，水筒，雨具，軍手，
行動食（チョコや菓子パンなど　ガムはダメ）
【学校】経口補水液ＯＳ－１

11　必要経費　　①桧原歴史館見学料（１人　１００円）
②トイレ使用料　（１人　１００円）
③守り狐材料費　（１人　４００円）

平成２９年　６月２３日

第２学年保護者様

只見町立只見中学校長　今　井　　仁
同　　第２学年主任　遠　藤　　学

# 第２学年自然体験活動実施のお知らせ

梅雨の候　皆様におかれましてはますますご健勝のことと推察いたします。また、日頃より本校教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、総合的な学習の時間の一環として、自然体験学習を計画いたしました。昨年度の「恵の森」に続き、今年度は「尾瀬国立公園（尾瀬沼）」を散策し、尾瀬の植生、生態系などの生物多様性に触れるとともに、集団行動を通して、思いやりや協調性を育む場としたいと思います。

つきましては、下記のように実施いたしますので、お子様の参加をご承諾いただくとともに、準備等のご協力をお願いいたします。

１．期　　日　平成２９年　７月　７日（金）
２．目的地　　尾瀬国立公園（尾瀬沼）
３．参加生徒　只見中学校第２学年　３０名
４．講　　師　現地ガイド４名
５．輸　　送　貸切りバス１台
６．引　　率　今井　仁・遠藤　学・星　嘉人・目黒　紗智・長谷部佳代
７．日　　程　行き帰りともに只見、明和地区は、各振興センターで地区ごとに乗り降りします。**※到着時刻は多少前後することをご了承ください。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ７：００ | 只見振興センター発 | １３：００ | 長蔵小屋出発 |
| ７；１５ | 只見中学校発 | １４：３０ | 沼山峠出発 |
| ７：３０ | 明和振興センター発 | １５：００ | 御池発 |
| ９：３０ | 御池 | １７：１５ | 明和振興センター着 |
| １０：００ | 沼山峠 | １７：３０ | 只見中学校着 |
| １１：３０ | 尾瀬沼畔「長蔵小屋」昼食 | １７：４５ | 只見振興センター着 |

８．準備物　服　装　学校指定運動着・帽子・リュックサック
　　持参物　弁当・水筒・筆記用具・メモ帳・雨具・タオル・ナイロン袋
　　薬(酔い止めなど)・カメラ・腕時計・現金 1,000 円程度
８．その他　○水分補給は水筒を原則としますが、不足する場合ｽﾎﾟｰﾂﾄﾞﾘﾝｸなどのﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ持参可とします。
　　○尾瀬沼でのトイレ使用は有料[100 円]となっているため、小銭の準備をお願いします。
　　○補食として飴やチョコレートなど、少量持たせていただいて構いません。
　　○台風、雷等を除き、雨天決行とします。

祝 尾瀬国立公園10周年

**教科名**：総合的な学習の時間

**単元名**：テーマ「　　地域の自然について考えよう　　」

**実施学年**：２学年（生徒１５名、引率教諭３名）

**本時の目標**：「　南会津郡の自然環境について知り、保全のための行動について考えよう。　」

**学習過程**

| 学習活動 | 時間 | 教師の支援 | |
|---|---|---|---|
| | | 授業者 | 指導者 |
| 1　課題を把握する。<br>ガイドさんの説明を聞き、尾瀬特有の自然とその保全について考えよう。 | ５分 | 事前学習で学んだことを意識させる。 | |
| 2　ガイドさんの説明を聞き、散策のための準備体操を行う。<br> | 10分 | ○　生徒が理解しているかどうか実態を把握する。（質問、声かけ） | ○　森林学習のポイントと注意点（安全面、木道でのマナー）について説明する。 |
| 3　尾瀬散策<br>・尾瀬特有の自然を体験する<br> | ５時間 | ○　説明の中で特殊な生態などがあれば、一緒に共感する。<br>○　生徒の体調面に気を配る。 | ○　植物や生態について、実物を用いて説明する。<br>○　森林や自然に対しての思いを伝える。 |
| 4　本時の学習を振り返り、気づいたことや感想をまとめる。<br> | 10分 | ○　事後学習や文化祭での発表を意識させ、細かくメモをとらせる。 | ○　本時の反省点を伝える。 |

森林環境学習指導案

金山町立金山中学校

# 授業計画例　木材加工（下駄箱製作）

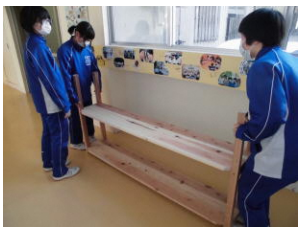
1　単元名　「間伐材を活用した木材加工」

2　本時のねらい

環境を守る森林の働きを理解するために、間伐する理由と木材の特性を学び、森を育てる意義を理解するとともに、森林環境に関する理解を深める。

3　活動の流れ

| 学　習　内　容 | 指　導　上　の　留　意　点 |
|---|---|
| 1　本時の課題を理解する。<br>（1）森林が無くなったら、どうなるかを考えさせる。<br>・　酸素がなくなる。<br>・　動物が呼吸できなくなる。<br>・　生物が全滅する。 | ○　理科で学習した光合成のはたらきと関連づけ､植物がでんぷんを作り､酸　素を発生することを確認する。 |
| （2）環境の良い森林はどのような条件が必要なのかを理解させる。<br>・　日光があたる。<br>・　栄養が十分ある。 | ○　学校近くの杉林の、内側から撮影した写真を提示し、杉の葉が無いことに気づかせる。 |
| （3）本時の課題を理解する。<br>豊かな森林を維持するために必要なことは何だろうか。 | |
| 2　豊かな森林を維持する作業を理解する。<br>（1）間伐作業を理解する。<br>（2）間伐作業（手入れ）をしない杉の木と間伐作業した木の違いを理解する。 | ○　地元の製材業者を講師に迎え、間伐作業しない杉の中身とその原因を説明していただく。 |
| （3）間伐材の特徴を理解する。 | ○　間伐された杉の有効利用を理解させる。 |

| | |
|---|---|
| 3　間伐材を使用した木材製品を作成する。<br>（１）材料としての杉の特徴を理解する。<br> | ○　木目だけではなく、香りや肌触りを確認する。<br>○　杉の木の耐久性を、１００年前の住宅を例に理解させる。 |
| （２）材料を分担して組み立てる。<br> <br> <br>  | ○　組み立てる際に、繊維方向を意識させる。<br>○　材料の特徴に応じた組み立て方法があることに気づかせる。<br>○　組み立て作業あるいは切断作業にあたっては、二人一組で取り組み、怪我の防止に努める。 |
| 4　間伐作業と間伐材の利用について理解する。<br>（１）間伐作業の必要性を理解する。<br>・　適度に日光が当たる。<br>・　枝打ち作業<br><br>（２）間伐材の利用方法を理解する。<br>・　木材（柱　板）<br>・　バイオマス燃料<br>・　合板等 | ○　材料として杉の木を植えるには、最初に密集して植えることで、木がまっすぐに育ち、材料としての価値が上がることを理解させる。<br>○　間伐だけでなく、枝打ちを行うことで、材料としての価値を上げる作業の必要性を理解させる。<br>○　間伐材の有効活用の必要性を理解させる。 |

# 平成２９年度　**第３学年**森林環境学習実施計画
## ～総合的な学習の時間～

中学校

１　ねらい

（１）森林のもつ国土保全や地球温暖化防止などの多面的機能を理解し，森林資源を適切に整備しながら循環的に利用していくことの大切さを学ぶ。

（２）地域の自然や歴史，環境について体験学習を通して理解を深め，自然愛護，環境保全の心を育てる。

（３）北塩原村の自然景観を代表する雄国沼周辺の自然を観察し，郷土の自然と歴史に誇りをもつ。

２　実施期日

平成２９年７月７日（金）【小雨決行】　※予備日：７月１２日（水）

※なお，大雨・荒天時には，６時に緊急連絡網で順延の連絡をする。
また，学校配信メールでも通知する。授業については，曜日交換をし，水曜日の授業の準備をする。

３　参加者

**３年生**　１５名

引率者

エコツーリズム講師(裏磐梯エコガイドの会所属)
さん　　さん

※ 朝の合流地点：ラビスパ裏磐梯向かい，保健センター入口(国道沿い)

４　場　所

雄国沼周辺　　「雄国沼の歴史，自然環境を知る」（**単元名**）

５　移動方法

村バス

６　日程・コース

エコツーリズム講師合流（ラビスパ向かい，保健センター入口）

学校発 8:30 ― 雄子沢登山口 9:10 ― 雄国休憩舎（休息）10:30 10:45 ― 木道散策 11:15 ―

**（トイレ）**　　**（トイレ）**

雄国休憩舎（昼食）12:00 ― 雄国休憩舎発 12:40 ― 雄国山山頂 13:20 ―

**（トイレ）**

― ラビスパ裏磐梯（東登山口）15:40 **（トイレ）** ― 学校着 16:20

７　準備物

【個人】ザック，雨具，防寒着，弁当，軍手，行動食（チョコや菓子パン）
傘，筆記用具，水筒（ペットボトル可 ただし１㍑は必要）

【学校】経口補水液ＯＳ－１

ニッコーキスゲが咲く雄国沼　　金沢峠から見た雄国沼

# 平成２９年度　第３学年北塩原村史跡巡り体験学習(森林環境体験学習)について

中学校

１　目　　的　（１）戦国時代東北最大規模を誇った守りの城、柏木城や会津藩の財政を担った桧原金山・桧原城の様子を見学し、郷土の歴史について理解を深める。
（２）旧米沢街道を散策することにより、先人の生活や自然環境について理解を深める。
（３）郷土の伝統的な木地玩具「守り狐」や北塩原の特産・山塩についての理解を深める。

２　実 施 日　　平成２９年９月１５日（金）　第１校時～第６校時　　※雨天実施

３　参加対象　　第３学年　１１名（男子８名　女子３名）

４　引　　率　　学校：担任　　、ＡＬＴ　　先生
裏磐梯エコツーリズム協会：（　　さん）
※村バス使用　　運転：（　　さん）

５　日　　程　　８：１５　日程確認・健康観察（教室）　※必ずトイレを済ませる。
８：２０　玄関集合・あいさつ
８：３０　学校出発（行程については後日調整）
１２：３０　学校到着
昼食・昼休み
以降、短縮での授業日課表
１３：２５～１４：１０　学校で守り狐絵付け体験（美術室）
１４：２０～１５：０５　感想・反省記入
１５：０５～１５：２５　簡単清掃
帰りの学級活動
終了次第、放課後の活動か下校

６　持 ち 物　　○服装は体操着（長袖・長ズボン）・リュック
○筆記用具・資料（しおり）・弁当・水筒・タオル・ティッシュ・帽子・雨具（カッパが良い）・敷物やシート・(軍手)
※天候によっては長靴か冬用の靴など濡れても大丈夫な靴を用意する。
（バスの中に置いておき、天候により必要なときに履き替える。）

７　準備物(学校)　カメラ、救急用品、守り狐実習費（８００円×１３名分)、謝礼、領収書

８　実施までの日程
７・８月中　　エコツーリズム協会（　　さん）と日程調整
９月上旬　　事前指導（道徳【郷土を愛する心】）
（北塩原村の史跡について事前学習・資料内容の読み合わせ）
９月１９日(火)　森林環境体験学習（北塩原村史跡学習・自然散策）
事後指導（体験学習のまとめ・感想）

９　注意事項　　（１）　引率の先生並びにエコツーリズムの方々の指示に従って行動する。
（２）　準備をしっかりして参加する。
（３）　説明を良く聞き、必要なことはメモをする。
（４）　バス酔いをする人は、各自酔い止めの薬を飲むなどの対応をする。

# 柳津町立柳津中学校

# 森林環境学習に関する学習指導案

1　学年　　３学年

2　教科名　技術・家庭

3　単元名　材料と加工に関する技術の評価・活用

4　学習のねらい

木材加工を専門とする職人を招き、使用する木材や加工工具の特徴、さらにその効果的な使用法について講義、演習を通して理解する。また、一緒に作業することを通して一流の技術にふれ、そのすばらしさや木製品のよさを感じることができる。

5　指導者　　技術科教員、講師（木材加工職人）

6　学習場所　技術室

7　時期と時数　　１１月　３時間

6　活動の流れ

【１時間目】

木材の種類や特徴を確認し、製品に適した木材や木材の使い方を理解する。また、加工工具を紹介し、使用法についての理解を深める。

【２時間目】

体育館ステージへの階段製作に向けて、実際に職人と一緒に加工工具を用いて木材を加工する。

【３時間目】

木材を組み立て、階段を完成する。また、実際に使用し、高さや使いやすさ等を調整する技術を学ぶ。

# 森林環境学習（総合の時間の中で）

喜多方市立会北中学校

1　学習のねらい
（1）　森林のはたらきについて理解することができる。
（2）　学校敷地内の冬囲いの仕方を実習する。

2　日　時　　平成２９年１１月１５日（水）５・６校時（１００分）

3　参加者　　全校生５９名と保護者

4　講　師　　喜多方市人材派遣センターの方たち

5　活動の流れ

| 学習内容 | 時　間 | 教師の支援 |
|---|---|---|
| 1　森林のはたらきについて学ぶ<br>・水をきれいにするはたらきがある。<br>・洪水を防ぐはたらきがある。<br>・木材として利用されている。 | １０ | ○熱塩加納地域の森林について考え，その役割について気づかせる。. |
| 2　校舎敷地内の木材の冬囲いの仕方について学習する。<br>・人材センターの方たちの冬囲いの方法をよく見て，理解する。<br>・低い木，高い木の冬囲いの仕方を実際に見ることで，理解する。 | ２０ | ○人材センターの方の説明を，よく聞くようにする。 |
| 3　人材センターの方たちの指導をうけ，校舎敷地内の木の冬囲いを行う。<br>・生徒は時に低木の冬囲いを中心に行う。<br>・保護者と協力して行う。<br><br>4　終了後，人材センターの方たちの話を聞く。<br>・木々を思う心を知る。 | ６０ | ○ケガなどないよう注意して行うよう支援する。<br><br>○縄，カッター，ハンマーなど必要なものを準備する。<br><br>○全員，けがなどないか確認する。 |

# 平成２９年度　森林環境学習「木工クラフト」実施計画

柳津町立西山中学校

１　目　　的

木材の材質のすばらしさを体感し、温かみのある旅の思い出（柳津・西山の土産品）になるような作品を作る。

２　実施期日　　平成２９年５月２５日（木）

３　実施場所　　本校技術室

４　実施方法

(1) 参加予定人員　　西山中学校全校生徒１２名　全校職員

(2) 日程時刻　　１３：２５～１５：０５

＊５校時～６校時

(3) その他の参考事項

○本行事は柳津町主催の森林環境学習の一環である。

○本行事は「西中ほのぼの夢工房」の試作品を考えるための事業である。

○３学生が主体となって模擬会社経営を行うのでリーダシップが発揮できるように支援していく。

「木工クラフト」活動計画

1　活動予定及び留意点

| 活　動　内　容 | 留　意　点 |
| --- | --- |
| 1　開始　１３：２５<br>昼休みに技術室に集合。<br><br>2　開校式　１３：３０<br>①開式の言葉<br>②社長あいさつ<br>③校長先生の話、並びに講師の先生の紹介<br>③講師の先生の話<br>④閉式の言葉<br><br>4　作業開始<br>5　できあがったら作品展示<br>6　閉校式（略式）<br>①感想発表　全員<br>②講評<br>③お礼の言葉<br>④諸連絡<br>⑤以上で閉校式を閉じます。 | ○作業ができるように道具などを配置する。<br>＊　アイディアスケッチ、彫刻刀、筆記用具<br><br>○できあがった作品を指定された場所に展示し、相互評価を行う。<br>＊時間に余裕のある生徒は、再チャレンジする。<br>○後片付け |

＜服装・準備物＞西中ジャージ

# 森林環境学習実施計画（稚魚放流）

柳津町立西山中学校

１　行事等の名称　　森林環境学習「滝谷川での稚魚放流」

２　目　　的

森林の貯水機能とその下流に生きる生物について学習し、稚魚放流による生態系の維持の活動を行う。

３　実施期日　　平成２９年６月１５日（木）

４　実施場所　　黒沢地区の川原（排水浄化センター付近）

５　実施方法

(1) 参加予定人員　　西山中学校全校生徒１２名
（柳津中学校２年生　２７名）

(2) 出発、帰校時刻　出発１１：３０
帰校１４：２０　　＊４校時～５校時

(3) 移動手段　　西山中：教諭私有車　　柳津中：バス

(4) 引率者　　西山中：全職員（教頭：学校待機）
柳津中：職員４名

(5) その他の参考事項

①本行事は柳津町主催の森林環境学習の一環である。
②本行事は柳津中学校との交流事業である。
③川原で昼食をとる。

６　**「滝谷川での稚魚放流」活動計画**

| 活　動　内　容 | 留　意　点 |
|---|---|
| １　出発<br>３校時（11:15）終了後、職員玄関集合。　川原に向かって出発。<br>○車に道具などをつけて運ぶ。 | |

| | |
|---|---|
| 2　班毎にかまど調理(11:30 ～) | |
| 3　できあがった班から食事 | ○すべてのゴミは持ち帰る。 |
| 4　後片づけ(13:15 ～)<br>＊終了しだい昨年の放流場所へ移動 | ○漁協、町職員の話をしっかり聞かせる。 |
| 5　放流及び講話(13:45 ～ 14:45)<br>＊柳津中(生徒 27 名)と合流 | ＜式次第＞　　司会：西中<br>１　はじまりの言葉（西中）<br>２　校長先生のお話および講師の紹介<br>３　講師の方による放流の仕方の説明<br>只見川漁業協同組合柳津支部長 |
| 6　帰校し６時間目（道徳）の授業で振り返り学習。<br>＊後片づけをし、各教室で本事業の感想をまとめる。 | ４　放流活動後に講話<br>「環境保全と川の役割　について」<br>５　感想発表（各校３名）<br>６　お礼の言葉（各校１名）<br>７　終わりの言葉（柳中）15:00ごろ |

＊　８：３０に実施可否判断→不可の場合９：００までに柳津中に教頭が電話連絡

○持ち物　　水筒、バケツ（学校で用意）

○服　装　　長靴、長袖、長ズボン、タオル、帽子、軍手

# 総合的な学習の時間　森林学習について

1　実施学年

全校生徒（中学１年～３年）

2　教科

総合的な学習の時間

3　単元名

矢ノ原湿原の散策をしよう

4　単元のねらい

（１）森や自然や郷土を大切にしようとする心を育てる。

（２）体験活動を通して，環境保全について関心をもたせる。

5　指導計画

| 段階 | 学習内容 | 時間 |
|---|---|---|
| 事前指導 | 「矢ノ原湿原について学ぼう」<br>森の案内人による出前講座を実施し，矢ノ原湿原の歴史や生息する動植物の存在を知る。 | 1 |
| 湿原散策 | 「矢ノ原湿原で動植物を探そう」<br>森の案内人３名のガイドで湿原散策をし，矢ノ原湿原固有の動植物を発見する。 | 2 |
| 事後指導 | 「振り返りをしよう」<br>湿原散策の振り返りを感想用紙に記入し，矢ノ原湿原の良さや大切さに気づく。 | 1 |

6　実際の活動

| 段階 | 学習活動・内容 | 活動の様子 |
|---|---|---|
| 事前指導 | 1　森の案内人による出前講座を講義形式で実施し，矢ノ原湿原の歴史や生息する動植物生態などを詳しく学習した。 | ○　プリントや写真・実物を用いて詳しい説明を受けた。<br> |
| 湿原散策 | 2　班ごとに森の案内人にガイドをしていただきながらハッチョウトンボなどの矢ノ原湿原固有の動植物を観察した。 | ○　３班それぞれにガイドがつき，詳しく説明を受けた。<br> |
| 事後指導 | 3　湿原散策の振り返りを感想用紙に記入し，班で発表した。その後全体で矢ノ原湿原の良さや大切さについて確認した。 | ○　代表生徒による全体発表<br> <br>○　矢ノ原湿原<br> |

**中学校**

# 第２学年２組　森林環境学習　学習指導案

平成２９年１０月３０日（月）第１校時
授業者：

１　学習のねらい

○　自然界における生物の相互関係や，自然と人間のかかわり方について感心を持つことができる。

○　生物と環境を知り，生態系への理解を深めることができる。

○　自然ふれあい体験活動を通して，生態系について興味・感心を持ち，環境保全の意義について自分の考えを持つことができる。

２　関連教科・学習年次

| | |
|---|---|
| 社会科 | １学年「世界のさまざまな地域」 |
| | ２学年「日本のさまざまな地域」 |
| 理科 | １学年「植物の世界」 |
| | ２学年「動物の生活と生物の変遷」 |
| | ３学年「生命の連続性」「地球とわたしたちの未来のために」 |
| 保健・体育 | ２学年「傷害の防止」 |
| 技術・家庭 | ２学年「エネルギー変換に関する技術」 |
| | ３学年「生物育成に関する技術」 |
| 道徳 | 「自然愛護」「生命の尊重」 |

３　指導計画【教科名】（総授業時間２時間）

（１）生物多様性と人間【理科】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（１時間）（本時）

（２）自然ふれあい体験活動【総合的な学習】・・・・・・・・・・・・・・・（１時間）

４　本時の目標

（１）生物多様性と人間

自然環境内では，１つの生態系の中で種間・遺伝子間の多様性があることを知り，生物多様性について興味・関心を持ち，あわせて，環境保全や生物多様性について自分の考えを持つことができる。

（２）自然ふれあい体験

散策コースに生息している生物の写真を撮影し，観察した特徴をまとめ，生物図鑑を作成する活動を通して，生物多様性や環境保全に対する自分の考えを深めると共に，自然愛護や生命の尊厳の心を養うことができる。

5　指導過程　　**中学校**

（1）生物多様性と人間　【 理科 】

| 段階<br>（時間） | 学習活動・内容 | 形態 | ○指導上の留意点<br>◇手立て　　**☆達成基準（評価方法）** |
|---|---|---|---|
| 課題把握<br>(5) | 1　2 種類のタンポポの写真を確認し，普段見ているタンポポがどちらの写真であるかを考える。<br><br>2　本時の課題を把握する。<br>生物多様性ってなぁに？ | グループ<br><br><br>一斉 | ○セイヨウタンポポとニホンタンポポの写真を見せ, 身の回りに咲いているタンポポは外来種であること理解させる。<br><br>◇全員に課題を把握させるため, ワークシートに課題を記入させる。 |
| 課題探求<br>(30) | 3　グループごとに人間が生態系に与えている影響を考え，グループでまとめた結論を発表する。<br>【資料①】（悪影響）<br>熱帯雨林の伐採問題や，外来種の放流に関する資料から，生態系が変化していることを考える。<br>【資料②】（好影響）<br>森林の管理と環境保全に関する資料から，環境保護がされていることを考える。<br><br>4　異なる考えを持つグループに反対のグループからメンバーを派遣し，派遣先でそれぞれの立場の説明をする。 その後，自分のグループに戻り，派遣先で受けた話し合いの内容について自分のグループで説明する。 | グループ<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>グループ | ○資料①と資料②をそれぞれ別々の班に配布し, 資料から読み取ることができる内容を班ごとにまとめさせる。<br>◇ディスカッションボードやマーカーペンを準備し, 言語活動の振り返りが行えるようにする。<br>○結論を発表する場面では, 人間が生態系に手を加えることで,「好影響を与えている」か「悪影響を与えている」かのみを発表させる。<br><br>☆派遣先で資料を活用して説明することができる。また，派遣先での話し合いの内容について，自分のグループで説明することができる。（ワークシート） |
| まとめ<br>(15) | 5　教師の話を聞き，本時のまとめをする。<br>○人間が自分たちの生活を豊かにするため生態系を壊している現状が見られる。<br>○人工林や田んぼなど，人間の手によって環境が保護され生物多様性が保たれている。<br><br>6　ワークシートに生物多様性についてわかったことや，環境保全に対する自分の考えをまとめる。 | 一斉 | ◇1 時間の内容を振り返りやすくするため, 配布した資料や, 各グループのディスカッションボードを黒板に掲示し, 自由に確認できるようにする。<br><br>☆生物多様性や，環境保全について自分の考えをまとめることができる。（ワークシート） |

（２）自然ふれあい体験活動　【 総合的な学習 】

| 段階<br>（時間） | 学習活動・内容 | 形態 | ○指導上の留意点<br>◇手立て　　**☆達成基準（評価方法）** |
|---|---|---|---|
| 課題把握<br>(5) | 1　前時の復習をする。<br><br>2　本時の課題を把握する。<br>世界に１つの生物図鑑をつくろう。 | 一斉 | ○人間は生活を豊かにするため生態系を壊している。その反面，人工林や田んぼなど，人間の手によって生物多様性ができている。ことを思い出させる。 |
| 課題探求<br>(35) | 3　散策コース周辺に生息している生物を観察し，その生物の写真を撮影する。 | グループ | ○散策時の注意点を説明する。<br>・危険の無いように散策すること。<br>・生物を採取しないこと。<br>○写真を撮影する場合，撮影対象の生物の特徴を記録しておくように説明する。<br>○散策時に，コース周辺に分布している生物名を確認しておく。 |
| まとめ<br>(10) | 5　本時のまとめをする。<br>① 生物図鑑の作成<br>撮影した写真と記録した特徴を模造紙に貼り，生物図鑑を作成する。<br>② 感想用紙をまとめる。 | グループ | ◇あらかじめ確認していた生物名や特徴などを教え，図鑑を作成させる。<br>☆生物の特徴に着目した図鑑を作成することができる。（生物図鑑）<br>☆生物図鑑の作成や，散策時の感想をまとめることができる。（感想用紙） |